

長寿国 日本の介護保険制度のありかた…

介護保険制度が造設されはや、14年になり民間企業の参入等でサービスの幅が広がり家族の介護負担は軽減された。

また医療技術の進歩により日本は長寿国となり、介護医療に関わる国の財政は増大し厳しい状況にある。4月から消費税アップや医療改革も行われた。

医療機関の機能分化 及び強化と言ひ、病気等で治る見込みのある患者は大病院等で見るが、そうでない患者は近所の病院やクリニックを受診する。大病院には紹介状がないと診てもらえない等と…。

86歳女性は、骨髄の病気で某大学病院に月に1度輸血をしに行っていたが、先日 主治医から「もう高齢なので輸血するのもどうか」と言われた。

今後、国は胃ろうや透析も消極的な様子だ。

要介護度の軽い高齢者は、在宅復帰の促進と言いつつ、介護保険施設から出されてしまう。

要介護度が重くならないと入れない状況だ。

認知症高齢者は要介護度の軽いほうが徘徊等で大変だ。さらに、介護する側もされる側も高齢と老老介護である。介護保険制度の始まりは人の尊厳を重視することから始まったのに…

戦争を越え、今の日本を守ってきた高齢者には
住み心地の悪い状況になっているのではないか…？



ご利用者さん同士の交流に…



アメリカ人のJ氏は認知症で日本語を忘れてしまい、今や英語もちぐはぐとなり、不安な日々を過ごしている中、同性のS氏が寄り添い、片言の英語で話し掛けては、お互い会話は噛み合わないものの、打ち解け合い笑顔で過ごすことができています。

最近では家から出ることも嫌がっているJ氏は、『ケアホーム希望』で、S氏と過ごす時間は安心してなのか笑顔になってくれる。

S氏の対話力と笑顔に職員も和むことができています。

きめの細かいサービスを心がけて…

ケアマネージャー資格を取り入社5年目になる。
はじめは家族の言われるがままにプランを立て、本人が泊まりたくない等と拒否をされることも…
利用者本位にプランが立てられず戸惑ってしまうことも数多くあった。
やっと5年目にして利用者にとって何が大切かを知り、家族や主治医とも連携を図り、時には利用者の病院等への受診に家族と一緒に付き添うこともある。一人暮らしの利用者にはサービスの組立はもとより、部屋の掃除から買い物まで自分の業務だとしている。
机上の事務作業ばかりではなく、利用者の夜の様子も把握できるからと夜勤業務も積極的にこなしている。

これからも利用者やその家族に寄り添うケアプランを立てることが大切だと思う。

『ケアホーム希望』 ケアマネージャー 湯浅 恵



レクリエーション活動の様子



藤の花より私たちが方がキレイでしょ

調布は楽しい場所がいっぱい！
天気の良い日はドライブや散歩に。



え〜っと…何をかうんだっけ？

気持ちいいわね〜

菖蒲湯に入りました！



本当は風呂なんて嫌いなんだよ…

菖蒲湯は単に厄除けとかの意味合いだけでなく身体に与える効果効能として、
血行促進、リュウマチ、神経痛、冷え性、筋肉痛、肩こり、腰痛、リラックス効果、とされています。



花のお手入れも楽しみの一つです



この日はみんなで勉強会？！

祝 お誕生日 おめでとうございます！

HAPPY BIRTHDAY!

81歳、93歳の利用者さんのお誕生日会を行いました！！



こんな大きな手作りのケーキをありがとっ！

家族と一緒にだと…嬉しいですね



泊りのサービス利用中に家族は寂しいのではと面会に来てくれます。

嬉しいですね！